

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり(入居者がのんびりした空間で職員があわただしく動くのではなく、時間に追われることなく、余裕をもって接するよう心掛け、一緒にのんびりします。そして、お互いの存在・役割を認め合い、たとえ時間がかかっても1つの過程を楽しめる心のゆとりを持てる空間を作る。)たのしく(たのしく生きること。自分で何かをやる場所があれば、そこが居場所となり、その人にとって楽しい空間になる。地域との密接な交流、社会参加を行う。入居者と向かい合って話しを聞き、その方のありのままを受け入れ不安や悩みを軽減・解消する。何でも楽しむ意思をわすれない。)いっしょに(人間は自分1人だけの力では生きて行けません。家族、友人、地域社会など、何らかのかかわりを持って、お互いを支えあって いっしょに生きていきます。同じ人として喜怒哀楽を共感しあい、同じ作業を入居者に教わりながら一緒にいき、一緒に行って初めて気付くことも多く、それを大事にしてこそ、お互いを思いやり、一緒に笑ったり、悩んだり、かんがえたりしながら信頼する心をもつ。)という理念を大切、認知症になった人の生活の場として、不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域のなかで生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設17年目を迎え、開設当初から比べるとグループホームのあり方も多様化しているが、「のんびり、たのしく、いっしょに」という設立当初からの理念に基づき、高齢期の一人暮らしは何かと不安があるが共同で生活することで安心して住み続けられるという信念で利用者本位のケアに努めている。管理者は、利用者が精神的に満足し生活意欲が向上するよう事業所の共同生活を、今一度確立したいと考えている。人の介助を得ながらも人と共に生きて行く、これから社会から求められる高齢者像を支援したいという頼もしい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム「むつみの家」

(ユニット名) 1 棟

記入者(管理者)  
氏名 白石 宏美

評価完了日 平成28年 8 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員、入居者がお互いに共有できるようリビングの壁に掲示している。</p> <p>(外部評価) 事業所は、グループホームが制度化される以前の全国で数カ所のモデル事業の段階から運営されており、理念も開設時からの考えを引き継いでいる。特に「いっしょに」の考えを大切にし、事業所は介護を提供するが共同生活の場であるという姿勢を伝え続けている。管理者は、利用者の高齢化や重介護が進む中、「のんびり」という対人サービスの理念に重きを置いている現状に頭を悩ませている。</p>	管理者は、高齢者福祉が「介護」に力を注ぎ、高齢者の「共同生活」の視点がおろそかになっている現状に、今一度原点に立ち戻る必要があると思っている。認知症の発症により一人暮らしは不安が大きいが、お互いがお互いを補いながら生活するという前向きな思考も利用者には必要で、高齢者の生活をさり気なく支援するのが職員の仕事と捉え、これらのことを理念のなかで表現したいと考えており、今後の取組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 入居者の心身の状況を見ながら、自治会や保育園の行事に参加するようにしている。自治会の回覧板などを活用し情報の共有を図りながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 3ユニットの大きな事業所であるが、それぞれのユニットが平屋の分離した建物であるため、周囲の住宅地に溶け込み馴染んでいる。秋祭りが町を上げてのイベントになっている地域で、事業所もそれに協調することで近所とのつきあいが強固になっている。事業所の前の道が小学校の通学路になっているため、「行ってらっしゃい」「お帰り」の声かけを利用者も行っている。</p>	事業所には、独立している3ユニットの真ん中に広い集会場がある。法人が他のセクションも使えるようにと用意したものであるが、利用者相互の付き合いを深めるためにも使用している。管理者は、地域の人が事業所を地域の枠組みとして意識し自主的に利用できるような取組みを考えている。事業所の専門性を活かした地域への貢献でもあり、自治会の要望でもあることから、地域と連携した取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催。自治会の方にも参加して頂き、認知症の学習や防災訓練など共に学ぶようにしている。年間4回「むつみ新聞」を発行。むつみの家の入居者の生活状況や介護に関する情報などを提供し理解を得るようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は年6回開催。事業所の運営状況、取り組みを報告すると共に、ご家族、地域の方、行政の方のご意見を頂き、サービスの向上に努めている。ご家族の参加が少なくなっているため検討が必要になっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は制度化された当初から開催しているため、議事録を見ても様々な取組みをしていることが分かる。近年は事業所が地域のためにできることを意識しているようで、認知症の勉強会や相談会、自治会長や民生委員との話し合い等に力を入れている。現在は事業所の集会場は母体病院が建て替え中のため、一部を他の部門が使用しているが、終われば全面が自由に使えるようになっており、運営推進会議でも活用方法の話し合いを始めようとするなど、有意義に活用できている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 密な関係といっても難しい。管理者・リーダーは必要に応じて担当者と相談するよう努めている。電話等での相談でなく直接出向き相談するようにしている。	
			(外部評価) 母体病院は、まだ医療としての関わりが少なかった時代から認知症のケアに積極的に取り組んでいる。事業所は国のモデル事業からの運営を行っており、そのため行政の信頼も厚く、また認知症の事業所の相談等も受けていることから、協力関係は強固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、身体拘束はしない。という方針での取り組みを心掛けている。ご本人の安全確保のため、ご家族に了解を頂きベット柵は利用している。	
			(外部評価) 身体拘束ゼロは母体病院の取組みでもあり、法人全体で実践している。法人関連の大きな施設では身体拘束の委員会等を作っており、定期的な勉強会もある。事業所はそれに参加したり資料に目を通したりと余念がない。管理者が意識している「共同生活」を実践する上では、身体拘束ゼロは必須の理念で、真摯に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 学ぶ機会が少ないが、入居者が心身ともに苦痛を感じないように生活支援ができるよう努めている。言葉の虐待にならないよう言葉遣いなど職員間で注意しながら取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 学ぶ機会が少なく理解不足である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の相談を受けた時には、十分な説明を行い、ご家族・ご本人に理解を得て納得して入居して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を開催。ご家族や地域の方、行政の方にも参加して頂き、情報の提供とご意見が頂けるようにしている。また、ご家族の面会時にも要望やご意見を頂けるよう積極的に関わるようにしている。  (外部評価) 事業所では「家族等と連携することが利用者の生活を豊かにする」と考えており、連携策の一つとして家族に利用者の暮らしぶりを伝えている。具体的には、利用者の担当職員が毎月メッセージカードを送り、体調の変化や医療情報を織り交ぜありのままを伝えるなど、それを見た家族との会話も深まっている。「話のやり取りの間に家族の何気ない言葉に利用者への思いを感じます」と家族の立場での聞き取りに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に部署会を開催。職員からの意見をリーダー会で検討している。時間がかかったり十分な反映がされていないと感じている。  (外部評価) 母体病院や関連施設で職員数は数百人おり、その一人ひとりが代表者と話し合うのは難しいが、職員が管理者に、管理者は施設長等に、施設長は理事長にと意見集約の体制は整っている。また、事業所は病院と違い、運営の采配の多くは管理者に任されており、事業所内の意見反映はスムーズである。管理者は各ユニットの業務シフトに入り、職員とは現場での話し合いを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 母体法人の事務長や看護部長に巡回をお願いし職場環境など改善をお願いしている。また、法人の理事がグループホームの担当医であり細かなことは適時相談している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内で定期時に開催されている内部研修に参加。また、上部団体である愛媛県地域密着型サービス協会の開催する研修にはできる限り参加するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 上部団体である愛媛県地域密着型サービス協会の開催する研修にはできる限り参加するようにしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の要望・ご意見を十分に聴き取り、日々のケアの中で声掛け・見守りを密にし本人の不安の軽減に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時にご家族のご意見・要望を十分に聴き取り、支援できることを支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時、それ以降の、ご家族の希望、ご本人の希望になるべく添えるようスタッフ間で研鑽努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の高齢化もあり無理の無いよう、できる事を共に行なうようにしている。さりげないコミュニケーションを心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、ご家族があまり気を使わないような声掛けを心掛け、不安や要望を聞き取れるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族に確認のうえ、なるべく面会制限のないよう関わって頂いている。	
			(外部評価) 事業所の運営が長くなると利用者の馴染みの関係も一人ひとり異なってくる。まだ利用期間が短いとそれまで住んでいた居住地に馴染みはあるが、利用期間の長期化等により幼い頃の実家だったりもする。また、事業所の造りが3棟の家のようになっているので、「ここが生まれ育った風景」と感じている人もいるなど、事業所では、その人に合わせた関係継続の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや食事の準備・後片付けなどを通して助け合ったり声掛けをしたりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご家族と相談しながら、退居後の受け入れ先など、よい方向に進むよう情報提供を行いながら相談している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご家族・ご本人の意向に添ったプランが立てられるよう要望を確認している。  (外部評価) 管理者は、利用者の状態が変われば思いや意向も変わる場合があるため、「ある程度の期間毎に利用者の思い等は確認しなくてはならない」と考えている。またスムーズな共同生活を維持するためには、利用者が他の利用者の意向を知っておく必要もある。職員は折りを見て本人の聞き取りをするだけでなく、利用者自身が全体を把握できるように、それぞれの思いを伝えることにも力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の生活状況など情報に基づき、スタッフ間で支援の仕方を話し合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の申し送りを通し、現状を把握し対処が遅れることのないよう気をつけている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の要望を聴き取り反映するように心掛けているが難しいことが多い。ご家族と話し合い、なるべくご本人の気持ちに沿った介護計画を立てることができるようにしている。  (外部評価) 管理者は、各ユニットに配置の計画作成担当者が作成する介護計画の責任を担っている。計画案は利用者付の担当職員が立て、ケア会議で計画作成担当者が取りまとめており、管理者がシフトで介護業務に入っているため、職員の立場としての意見を出し合うことができている。介護計画の質を上げることは利用者の生活の質を上げることになるため、職員には介護支援専門員等の資格を取得するよう勧めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の申し送りノートや週間活動表、カルテに記録した内容をスタッフ間で共有しケアプランに活用できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族のニーズになるべく対応できるよう管理者に相談しながらサービスの提供ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 身体機能の可能な範囲で無理のないよう地域活動に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前から通院している病院は、ご家族の協力を頂きなが ら、引き続き連携を取るようになっている。入居後の体調不 良時は、ご家族と相談しながら対応している。	
			(外部評価) 多くの利用者は母体病院がかかりつけ医になっている。他の 専門医がかかりつけ医の利用者もいるが、定期的に往診を受 けているため、通常健康管理は母体病院が行っている。管 理者が看護師で健康管理を一元的に行っているため、各病院 から信頼されており安心して話し合いができています。病院 受診が必要な場合は、できる限り家族等に付き添いを依頼し、 事業所と家族が連携して利用者を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日の申し送りなど看護職員に伝えている。担当医・看護師 など指示を仰ぎながら適切な受診が行なえることができるよ う支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入退院時には、介護サマリーなどで情報を提供し共有ができ るようにしている。入院中も情報の共有ができるようこまめ な連絡を取るようになっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に重度化や終末期に対する考え方として事業所ででき ること（看取りはしないこと）を十分に説明し理解して頂いて いる。ホームで対応が難しくなった場合は母体病院や福祉施 設への入所ができるよう支援をしている。	
			(外部評価) 事業所の理念が「共同生活を支える」ことを重視しているた め、終末期ケアは行わないという方針で、利用者が口から栄 養が摂れ、医療的ケアを必要としないで生活できる範囲で支 援している。管理者は「家族に次の所を依頼するのは辛いで す」という思いではあるが、「でもここを利用する時の契約 ですから」と事業所の考えを通すところに、「共同生活を支 える」という信念でケアを行っている強さを感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年間2回は心肺蘇生・AEDの使用法の研修を実施している。突発的なことに対しても対応できるように意識付けをしている。母体病院で実施される研修にも積極的に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年間2回は防災訓練を実施している。合わせて心肺蘇生・AEDの使用法の研修を実施している。自治会主催の防災研修にも参加し地域の方との交流を図りながら災害対策に対する取り組みを行っている。  (外部評価) 災害訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれており、自治会からは身近な場所で色々な訓練が体験できると好評である。事業所が緊急連絡網により母体病院と繋がっていることに、地域住民は安心感を持っている。自然災害等の際は、近隣の方に事業所の集会場を避難場所として提供することを伝えており、過去の豪雨災害の際は事業所が地域で有効に活用されるなど、事業所は住民にとって貴重な存在である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者一人一人の個性を大切にしみを持ちながら支援している。その人のプライドを傷つけないよう努めている。  (外部評価) 昼食時にお喋りが好きな利用者が職員を相手に夢中に話す様子を見ると、そのペースに他の利用者は付いて行けないように感じるほどであったが、職員は心得たもので上手に対処し視線を他者にも配り、さり気ない食事の介助や微笑みかけ、利用者一人ひとりを尊重しながら支援している。調査員との一緒に食事は利用者も気を使い寡黙であるが、横顔からは充実している生活を送っている様子が窺え、事業所が個人の誇りを大切にしていることが理解できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援の中で表情や会話からご本人の気持ちを汲み取り、要望や思いを聴き取れるよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の業務の都合に合わせてしまうことが多々あるが、入居者個々のペースを大切に、その人の要望に対して寄り添えるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族とも相談しながら、その人の状況に応じた身だしなみやおしゃれができるよう気配りをしている。訪問美容なども活用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人に状況に応じた準備をし、食事が楽しく・おいしく感じられるように工夫をしている。	
			(外部評価) 最近まで料理は各ユニットで作っていたが、重介護化が進むと職員が利用者とゆっくり話す時間が取れなくなり、現在は週に何回か宅配を利用している。職員が業者に献立や量などを細かくリクエストしており、宅配だとは分からない。また、ご飯は利用者一人ひとりに対応できるよう各ユニットで用意しているなど、事業所のこだわりが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人差があるので、食事量・水分量などをチェックしながら無理強いしないよう勧めている。個々の嗜好も考慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回、一人一人の口腔内のチェックはできかねるが、個々の状況によって介助・見守りが必要な人に対しては付き添い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握している。個々の状況に応じて紙パンツ・尿取パット・尿もれナプキンなどを使い分けている。	
			(外部評価) 職員は利用者が日中はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間は利用者により睡眠を優先するため紙おむつやパットも使用している。トイレは各居室にあたり、一箇所に集中して設置されていたりとユニット毎に違いがある。職員からは「それぞれ一長一短があります」と聞かすが、短所は職員全員の介護力で補っている。トイレが集中しているユニットでも、臭いが気にならないぐらい手入れが行き届くなど、利用者が気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) その人の状況に応じて、毎日、排便を促す様なヨーグルトなど乳製品を摂って頂くようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的な入浴日は決めているが、希望した人に対しては本人の希望に合わせて入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 事業所は「共同生活」をイメージしているため、ゆったりとした気分で仲間同士でも入浴できるよう浴室は広く、浴槽も3～4人用である。「皆で温泉気分」は過去のことで、現在は利用者職員により個浴として使われている。また、シャワーチェアやシャワーキャリーを準備するなど、危険のないよう努めている。管理者は、入浴介護の現場を見るたびに、当初実現していた「共同生活」を目指すか、重介護化に備えるかのはざ間で困惑しているのが現状である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 午後にお昼寝の時間をとっている。夕食後は、自室、リビングにて個々で自由な時間を過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれが、どのような薬を服用しているか把握している。副作用などはその都度、お薬辞書などで確認している。常に担当医と相談しながら行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴やご本人の興味のあること、好きなことを把握できるようコミュニケーションを多く取り、情報収集し普段の支援に取り入れている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力を得ながら、その方の希望に応じた外出支援ができるように心掛けている。しかし、入居者の身体機能の低下もあり以前より少なくなっている。  (外部評価) 母体法人の車両を使い、遠方への外出は年間行事として実施しているが、回数が限られているので、できる限り庭に出るなど外気浴を楽しんでいる。庭には軒が長い屋根があり、雨の日でも安心して戸外に出ることが出来るため、利用者は雨だれを見たりトタンの雨音などを聞くことに風情を感じている。管理者は、利用者が外出し外の空気に触れることは、身体機能の維持や向上、ストレス解消など相乗効果があるという信念で、家族の協力などを得ながら積極的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の自己管理については、してもらっていない。ご本人が個人的に欲しいものがあれば事業所で立替えご家族に請求している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望があれば応じている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングは明るく、季節に応じた飾り付けをしている。リビングやトイレの床がはがれかけておりガムテープで応急処置をしているため、つまづき転倒などの危険もある。また見た目にも悪くなっている。</p> <p>(外部評価) 民家を改修したユニットの味わいを引き継ぎ、どのユニットも自宅で寛ぐような気安さがある。事業所は住宅地にある平屋建てで、玄関からすぐにリビングに上がれるユニットがあり、また各ユニットの中心の中庭から玄関に入るようになっているが、中庭が外部から事業所の生活を守っているため、プライバシーは確保されており安心である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 個々の状況、相性などを職員が理解し、トラブルにならないよう配慮し、それぞれが落ち着く空間づくりに努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 今まで使い慣れた、馴染の家具などを持ち込んで頂き居心地のよく過ごして頂くようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所というように居心地の良さが感じられる。法人所有のベッドを活用している利用者が多いほか、民家改修のユニットでは、広い縁側までのふすまを取り払った続き間をそのまま居室として利用しており、実家に帰ってきた雰囲気や気持ちが落ち着き、安らぎを感じることができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) できることは見守りし、個々の状態に応じてして頂いている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり(入居者がのんびりした空間で職員があわただしく動くのではなく、時間に追われることなく、余裕をもって接しよう心掛け、一緒にのんびりします。そして、お互いの存在・役割を認め合い、たとえ時間がかかっても1つの過程を楽しめる心のゆとりを持てる空間を作る。)たのしく(たのしく生きること。自分で何かをやる場所があれば、そこが居場所となり、その人にとって楽しい空間になる。地域との密接な交流、社会参加を行う。入居者と向かい合って話を聞き、その方のありのままを受け入れ不安や悩みを軽減・解消する。何でも楽しむ意思をわすれない。)いっしょに(人間は自分1人だけの力では生きて行けません。家族、友人、地域社会など、何らかのかかわりを持って、お互いを支えあって いっしょに生きていきます。同じ人として喜怒哀楽を共感しあい、同じ作業を入居者に教わりながら一緒に行き、一緒に行って初めて気付くことも多く、それを大事にしてこそ、お互いを思いやり、一緒に笑ったり、悩んだり、かんがえたりしながら信頼する心をもつ。)という理念を大切、認知症になった人の生活の場として、不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域のなかで生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設17年目を迎え、開設当初から比べるとグループホームのあり方も多様化しているが、「のんびり、たのしく、いっしょに」という設立当初からの理念に基づき、高齢期の一人暮らしは何かと不安があるが共同で生活することで安心して住み続けられるという信念で利用者本位のケアに努めている。管理者は、利用者が精神的に満足し生活意欲が向上するよう事業所の共同生活を、今一度確立したいと考えている。人の介助を得ながらも人と共に生きて行く、これから社会から求められる高齢者像を支援したいという頼もしい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I.理念に基づく運営

#### II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

#### III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム「むつみの家」

(ユニット名) 2 棟

記入者(管理者)

氏名 近藤 久留美

評価完了日

平成28年8月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念については、各ユニットに掲げており、理念を念頭にして実践ができるように心掛けている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、グループホームが制度化される以前の全国で数カ所のモデル事業の段階から運営されており、理念も開設時からの考えを引き継いでいる。特に「いっしょに」の考えを大切にし、事業所は介護を提供するが共同生活の場であるという姿勢を伝え続けている。管理者は、利用者の高齢化や重介護化が進む中、「のんびり」という対人サービスの理念に重きを置いている現状に頭を悩ませている。</p>	管理者は、高齢者福祉が「介護」に力を注ぎ、高齢者の「共同生活」の視点がおろそかになっている現状に、今一度原点に立ち戻る必要があると思っている。認知症の発症により一人暮らしは不安が大きい、お互いがお互いを補いながら生活するという前向きな思考も利用者には必要で、高齢者の生活をさり気なく支援するのが職員の仕事と捉え、これらのことを理念のなかで表現したいと考えており、今後の取組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には、できる限り参加するようにし交流が図れるようにしている。</p> <p>(外部評価) 3ユニットの大きな事業所であるが、それぞれのユニットが平屋の分離した建物であるため、周囲の住宅地に溶け込み馴染んでいる。秋祭りが町を上げてのイベントになっている地域で、事業所もそれに協調することで近所とのつきあいが強固になっている。事業所の前の道が小学校の通学路になっているため、「行ってらっしゃい」「お帰り」の声かけを利用者も行っている。</p>	事業所には、独立している3ユニットの真ん中に広い集会場がある。法人が他のセクションも使えるようにと用意したものであるが、利用者相互の付き合いを深めるためにも使用している。管理者は、地域の人が事業所を地域の枠組みとして意識し自主的に利用できるような取組みを考えている。事業所の専門性を活かした地域への貢献でもあり、自治会の要望でもあることから、地域と連携した取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的にむつみ新聞の発行しているが、地域からの要望に応じた、いろいろな資料を掲載・作成し配布している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は行っているが、参加者が少なくなっている。今後、少しでも多くのご家族が参加して頂けるような工夫、検討が必要と考えている。	
			(外部評価) 運営推進会議は制度化された当初から開催しているため、議事録を見ても様々な取組みをしていることが分かる。近年は事業所が地域のためにできることを意識しているようで、認知症の勉強会や相談会、自治会長や民生委員との話し合い等に力を入れている。現在は事業所の集会場は母体病院が建て替え中のため、一部を他の部門が使用しているが、終われば全面が自由に使えるようになっており、運営推進会議でも活用方法の話し合いを始めようとするなど、有意義に活用できている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への出席をして頂き、その際に情報交換を行っている。その他では、管理者から定期的に情報を提供している。また、分からないことがあれば訪問し直接確認するようにしている。	
			(外部評価) 母体病院は、まだ医療としての関わりが少なかった時代から認知症のケアに積極的に取り組んでいる。事業所は国のモデル事業からの運営を行っており、そのため行政の信頼も厚く、また認知症の事業所の相談等も受けていることから、協力関係は強固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的には、身体拘束はしないことを実践しているが、利用者の状態に応じて、ご家族の了解を頂き玄関の施錠をすることがある。	
			(外部評価) 身体拘束ゼロは母体病院の取組みでもあり、法人全体で実践している。法人関連の大きな施設では身体拘束の委員会等を作っており、定期的な勉強会もある。事業所はそれに参加したり資料に目を通したりと余念がない。管理者が意識している「共同生活」を実践する上では、身体拘束ゼロは必須の理念で、真摯に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は、虐待については、十分に理解し取り組むことができていると考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強不足であり、漠然とした理解である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する際に管理者から説明を実施している。ご家族からの問い合わせがあった時には、その都度説明をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的な運営推進会議を開催。ご家族や地域住民の方にも参加して頂き情報の提供とご意見が頂けるようにしている。また、面会時にも要望やご意見を聴き反映できるように努めている。  (外部評価) 事業所では「家族等と連携することが利用者の生活を豊かにする」と考えており、連携策の一つとして家族に利用者の暮らしぶりを伝えている。具体的には、利用者の担当職員が毎月メッセージカードを送り、体調の変化や医療情報を織り交ぜありのままを伝えるなど、それを見た家族との会話も深まっている。「話のやり取りの間に家族の何気ない言葉に利用者への思いを感じます」と家族の立場での聞き取りに心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的にリーダー会を実施。意見交換を行っている。また、各ユニット毎に定期的なカンファレンスを行っている。</p> <p>(外部評価) 母体病院や関連施設で職員数は数百人おり、その一人ひとりが代表者と話し合うのは難しいが、職員が管理者に、管理者は施設長等に、施設長は理事長にと意見集約の体制は整っている。また、事業所は病院と違い、運営の采配の多くは管理者に任されており、事業所内の意見反映はスムーズである。管理者は各ユニットの業務シフトに入り、職員とは現場での話し合いを心がけている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 個々にある不満を聴き取り、解決できることから改善するようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定期的に行はれる法人内の研修には全員参加している。事業所外で行われている研修においても参加できる体制はできている。今後は、参加できていないスタッフとの情報の共有と充実が図れるようにしたい。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 一部の職員についてはできているが殆んどできていないのが現状である。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所当初は、ご家族からも、できる限り聴き取りを実施し、ご本人の状態に応じた対応を心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、ご家族から聴き取りを実施している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 意思表示が可能な方であれば、ご本人から、難しい方はご家族から聴き取りをし、それに対する他のサービスの利用なども説明し話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活で、ご本人のできることはして頂きながら対応するように心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人の状況について、ご家族にできる限り詳細に報告しながら連携を図るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族の協力を頂きながら、できる限り継続ができるように心掛けている。	
			(外部評価) 事業所の運営が長くなると利用者の馴染みの関係も一人ひとり異なってくる。まだ利用期間が短いとそれまで住んでいた居住地に馴染みはあるが、利用期間の長期化等により幼い頃の実家だったりもする。また、事業所の造りが3棟の家のようになっているので、「ここが生まれ育った風景」と感じている人もいるなど、事業所では、その人に合わせた関係継続の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の方の状態に応じた席の配置など工夫をして対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後になるとできていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別的な希望や意向については、なかなか対応できていない。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状態が変われば思いや意向も変わる場合があるため、「ある程度の期間毎に利用者の思い等は確認しなくてはならない」と考えている。またスムーズな共同生活を維持するためには、利用者が他の利用者の意向を知っておく必要もある。職員は折りを見て本人の聞き取りをするだけでなく、利用者自身が全体を把握できるように、それぞれの思いを伝えることにも力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前の情報については、ご家族からの聴き取りやこれまで利用していた施設、ケアマネなどから情報を頂き把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、ご本人の身体状況を確認しながら対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回のカンファレンスを実施しながら職員間での情報の共有を行っている。	
			(外部評価) 管理者は、各ユニットに配置の計画作成担当者が作成する介護計画の責任を担っている。計画案は利用者付の担当職員が立て、ケア会議で計画作成担当者を取りまとめており、管理者がシフトで介護業務に入っているため、職員の立場としての意見を出し合うことができている。介護計画の質を上げることは利用者の生活の質を上げることになるため、職員には介護支援専門員等の資格を取得するよう勧めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 詳細な記録を作成している。毎朝の、申し送り時に状況報告を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) サービスの多機能化には取り組めていない。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源の活用は、殆んど取り組めていない。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には、主治医の指示のもと支援している。既往歴のあ る方については、これまで診察を受けていた医師に継続して 診察を受けるかどうか、ご家族のご意見を聴き対応してい る。	
			(外部評価) 多くの利用者は母体病院がかかりつけ医になっている。他の 専門医がかかりつけ医の利用者もいるが、定期的に往診を受 けているため、通常の健康管理は母体病院が行っている。管 理者が看護師で健康管理を一元的に行っているため、各病院 から信頼されており安心して話し合いができています。病院受 診が必要な場合は、できる限り家族等に付き添いを依頼し、 事業所と家族が連携して利用者を支えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ご本人の身体状況について、看護師と相談しながら支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) できている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは行っていない。入所時に事業所としての 考え方を十分に説明し、理解を得たうえで入所して頂いてい る。しかし、少しでも長く、また、ご家族の負担にならない よう、ご家族と話し合いながら、母体病院と連携しながら対 応している。	
			(外部評価) 事業所の理念が「共同生活を支える」ことを重視しているた め、終末期ケアは行わないという方針で、利用者が口から栄 養が摂れ、医療的ケアを必要としないで生活できる範囲で支 援している。管理者は「家族に次の所を依頼するのは辛いで す」という思いではあるが、「でもここを利用する時の契約 ですから」と事業所の考えを通すところに、「共同生活を支 える」という信念でケアを行っている強さを感じられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 1年に2回、定期的に訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 1年に2回、定期的に訓練を行っている。緊急連絡網、母体病院との連携を図りながら対応できるようにしている。	
			(外部評価) 災害訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれており、自治会からは身近な場所で色々な訓練が体験できると好評である。事業所が緊急連絡網により母体病院と繋がっていることに、地域住民は安心感を持っている。自然災害等の際は、近隣の方に事業所の集会場を避難場所として提供することを伝えており、過去の豪雨災害の際は事業所が地域で有効に活用されるなど、事業所は住民にとって貴重な存在である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本的には、対応できるよう心掛けている。	
			(外部評価) 昼食時にお喋りが好きな利用者が職員を相手に夢中に話す様子を見ていると、そのペースに他の利用者は付いて行けないように感じるほどであったが、職員は心得たもので上手に対処し視線を他者にも配り、さり気ない食事の介助や微笑みかけ、利用者一人ひとりを尊重しながら支援している。調査員との一緒に食事は利用者も気を使い寡黙であるが、横顔からは充実している生活を送っている様子が窺え、事業所が個々の誇りを大切にしていることが理解できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常の会話の中から、ご本人の気持ちを聴き出しながら対応できるように心掛けているが完全ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常的な業務と、一人一人のペースの違いが大きいこともあり、あまりできていない。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご自分で衣類の選択が可能なお人には支援できている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の身体状況に応じての食事の提供はしている。一緒に食事をしながら様子を観察を行っている。食事の準備は一緒にはできていない。	
			(外部評価) 最近まで料理は各ユニットで作っていたが、重介護化が進むと職員が利用者と一緒に話す時間が取れなくなり、現在は週に何回か宅配を利用している。職員が業者に献立や量などを細かくリクエストしており、宅配だとは分からない。また、ご飯は利用者一人ひとりに対応できるよう各ユニットで用意しているなど、事業所のこだわりが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) できる限り、個別対応ができるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々に対してできている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の状況を把握。個別対応をしている。	
			(外部評価) 職員は利用者が日中はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間は利用者により睡眠を優先するため紙おむつやパットも使用している。トイレは各居室にあたり、一箇所に集中して設置されていたりとユニット毎に違いがある。職員からは「それぞれ一長一短があります」と聞かすが、短所は職員全員の介護力で補っている。トイレが集中しているユニットでも、臭いが気にならないぐらい手入れが行き届くなど、利用者が気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ取り組んでいる	(自己評価) ご本人の嗜好を考慮しながら飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じ取り組んでいる。状況を見ながら緩下剤を活用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日の身体状況に応じた対応をしている。時間帯は決まっていない。	
			(外部評価) 事業所は「共同生活」をイメージしているため、ゆったりとした気分で仲間同士でも入浴できるような浴室は広く、浴槽も3～4人用である。「皆で温泉気分」は過去のこと、現在は利用者職員により個浴として使われている。また、シャワーチェアやシャワーキャリーを準備するなど、危険のないよう努めている。管理者は、入浴介護の現場を見るたびに、当初実現していた「共同生活」を目指すか、重介護化に備えるかのはざ間で困惑しているのが現状である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個別的に対応できている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医の状態報告を行い、指示のもと対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個別に、ご本人ができる事や趣味に応じて対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の支援は、季節ごとの行事以外は殆んどできていない。ご家族と相談、協力を頂きながら外出支援を行っている。	
			(外部評価) 母体法人の車両を使い、遠方への外出は年間行事として実施しているが、回数が限られているので、できる限り庭に出るなど外気浴を楽しんでいる。庭には軒が長い屋根があり、雨の日でも安心して戸外に出ることができるため、利用者は雨だれを見たりトタンの雨音などを聞くことに風情を感じている。管理者は、利用者が外出し外の空気に触れることは、身体機能の維持や向上、ストレス解消など相乗効果があるという信念で、家族の協力などを得ながら積極的に外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) できていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望により、ご家族の了解を得ながら対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) いろいろ工夫し、できている。  (外部評価) 民家を改修したユニットの味わいを引き継ぎ、どのユニットも自宅で寛ぐような気安さがある。事業所は住宅地にある平屋建てで、玄関からすぐにリビングに上がれるユニットがあり、また各ユニットの中心の中庭から玄関に入るようになっているが、中庭が外部から事業所の生活を守っているため、プライバシーは確保されており安心である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人になる空間はないが、気の合う利用者同士で過ごせるように座る位置など考え対応している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして頂けるようお願いしている。  (外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所というように居心地の良さが感じられる。法人所有のベッドを活用している利用者が多いほか、民家改修のユニットでは、広い縁側までのふすまを取り払った続き間をそのまま居室として利用しており、実家に帰ってきた雰囲気での気持ちが落ち着き、安らぎを感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事故のないように安全には気を付けている。自立した生活といった観点からするとできていない。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870500422
法人名	医療法人 十全会
事業所名	グループホームむつみの家
所在地	新居浜市中萩町9番52号
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 9月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびり(入居者がのんびりした空間で職員があわただしく動くのではなく、時間に追われることなく、余裕をもって接するよう心掛け、一緒にのんびりします。そして、お互いの存在・役割りを認め合い、たとえ時間がかかっても1つの過程を楽しめる心のゆとりを持てる空間を作る。)たのしく(たのしく生きること。自分で何かをやれる場所があれば、そこが居場所となり、その人にとって楽しい空間になる。地域との密接な交流、社会参加を行う。入居者と向かい合って話しを聞き、その方のありのままを受け入れ不安や悩みを軽減・解消する。何でも楽しむ意思をわすれない。)いっしょに(人間は自分1人だけの力では生きて行けません。家族、友人、地域社会など、何らかのかかわりを持って、お互いを支えあって いっしょに 生きていきます。同じ人として喜怒哀楽を共感しあい、同じ作業を入居者に教わりながら一緒にいき、一緒に行って初めて気付くことも多く、それを大事にしてこそ、お互いを思いやり、一緒に笑ったり、悩んだり、かんがえたりしながら信頼する心をもつ。)という理念を大切、認知症になった人の生活の場として、不安なく生活が送れるように支援している。職員だけでなく、ご家族、地域住民の協力を得ながら、地域のなかで生活が送れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設17年目を迎え、開設当初から比べるとグループホームのあり方も多様化しているが、「のんびり、たのしく、いっしょに」という設立当初からの理念に基づき、高齢期の一人暮らしは何かと不安があるが共同で生活することで安心して住み続けられるという信念で利用者本位のケアに努めている。管理者は、利用者が精神的に満足し生活意欲が向上するよう事業所の共同生活を、今一度確立したいと考えている。人の介助を得ながらも人と共に生きて行く、これから社会から求められる高齢者像を支援したいという頼もしい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム「むつみの家」

(ユニット名) 3 棟

記入者(管理者)  
氏名 上田 あや子

評価完了日 平成28年 8 月 20 日



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ユニット内に掲示し理念の意味を把握理解し、日々の支援の方向性を話し合う中で基本にしている。</p> <p>(外部評価) 事業所は、グループホームが制度化される以前の全国で数カ所のモデル事業の段階から運営されており、理念も開設時から考えを引き継いでいる。特に「いっしょに」の考えを大切にし、事業所は介護を提供するが共同生活の場であるという姿勢を伝え続けている。管理者は、利用者の高齢化や重介護化が進む中、「のんびり」という対人サービスの理念に重きを置いている現状に頭を悩ませている。</p>	管理者は、高齢者福祉が「介護」に力を注ぎ、高齢者の「共同生活」の視点がおろそかになっている現状に、今一度原点に立ち戻る必要があると思っている。認知症の発症により一人暮らしは不安が大きいが、お互いがお互いを補いながら生活するという前向きな思考も利用者には必要で、高齢者の生活をさり気なく支援するのが職員の仕事と捉え、これらのことを理念のなかで表現したいと考えており、今後の取組みに期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して自治会の方、市行政の方から情報を頂き、常に積極的に協力できる姿勢でいる。</p> <p>(外部評価) 3ユニットの大きな事業所であるが、それぞれのユニットが平屋の分離した建物であるため、周囲の住宅地に溶け込み馴染んでいる。秋祭りが町を上げてのイベントになっている地域で、事業所もそれに協調することで近所とのつきあいが強固になっている。事業所の前の道が小学校の通学路になっているため、「行ってらっしゃい」「お帰り」の声かけを利用者も行っている。</p>	事業所には、独立している3ユニットの真ん中に広い集会場がある。法人が他のセクションも使えるようにと用意したものであるが、利用者相互の付き合いを深めるためにも使用している。管理者は、地域の人が事業所を地域の枠組みとして意識し自主的に利用できるような取組みを考えている。事業所の専門性を活かした地域への貢献でもあり、自治会の要望でもあることから、地域と連携した取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所での避難訓練や救命講習への参加の呼びかけを行ったり、むつみ新聞の配布を行い、その中で感染症について、骨粗しょう症について、脱水についてなど啓発している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では事業所の運営状況や取り組みを報告すると共にご家族や地域住民、市行政の方などにご意見を頂きサービスの向上に努めているが参加者の減少傾向がみられ検討が必要になっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は制度化された当初から開催しているため、議事録を見ても様々な取組みをしていることが分かる。近年は事業所が地域のためにできることを意識しているようで、認知症の勉強会や相談会、自治会長や民生委員との話し合い等に力を入れている。現在は事業所の集会場は母体病院が建て替え中のため、一部を他の部門が使用しているが、終われば全面が自由に使えるようになっており、運営推進会議でも活用方法の話し合いを始めようとするなど、有意義に活用できている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 十分とは言えないが、必要に応じて市町村の担当者に相談し教えて頂きながら関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 母体病院は、まだ医療としての関わりが少なかった時代から認知症のケアに積極的に取り組んでいる。事業所は国のモデル事業からの運営を行っており、そのため行政の信頼も厚く、また認知症の事業所の相談等も受けていることから、協力関係は強固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 十分とは言えないが理解していると思う。ケアの実施にあたって解らない時には、皆で話し合いながら取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束ゼロは母体病院の取組みでもあり、法人全体で実践している。法人関連の大きな施設では身体拘束の委員会等を作っており、定期的な勉強会もある。事業所はそれに参加したり資料に目を通したりと余念がない。管理者が意識している「共同生活」を実践する上では、身体拘束ゼロは必須の理念で、真摯に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会等には参加し、入居の方が精神的にも身体的にも苦痛を感じないよう支援している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度について学ぶ機会が少なく、不十分ではあるが、現在、成年後見制度を活用している方を見ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には十分な説明を行い、ご家族に理解をして頂き入居して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 定期的な運営推進会議の開催。ご家族や地域住民の方、市行政の方に参加して頂き、情報の提供を行い、ご意見を頂けるようにしている。また、面会時にもご意見や要望を聴き運営に反映できるように努めている。	
			(外部評価) 事業所では「家族等と連携することが利用者の生活を豊かにする」と考えており、連携策の一つとして家族に利用者の暮らしぶりを伝えている。具体的には、利用者の担当職員が毎月メッセージカードを送り、体調の変化や医療情報を織り交ぜありのままを伝えるなど、それを見た家族との会話も深まっている。「話のやり取りの間に家族の何気ない言葉に利用者への思いを感じます」と家族の立場での聞き取りに心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフからの意見は、定期的に行はれるリーダー会で報告・検討。フィードバックしている。  (外部評価) 母体病院や関連施設で職員数は数百人おり、その一人ひとりが代表者と話し合うのは難しいが、職員が管理者に、管理者は施設長等に、施設長は理事長にと意見集約の体制は整っている。また、事業所は病院と違い、運営の采配の多くは管理者に任されており、事業所内の意見反映はスムーズである。管理者は各ユニットの業務シフトに入り、職員とは現場での話し合いを心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々にある不満を聴き取り、解決できることから改善するようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に行はれる法人内の研修には全員参加している。事業所外で行われている研修においても参加できる体制はできている。今後は、参加できていないスタッフとの情報の共有と充実が図れるようにしたい。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会主催の研修に参加し知識・技術の習得に努めている。また、他事業所の職員とのネットワークの構築といった観点から大切にしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の状況を把握し、ご家族の意見・要望を十分に聴き取り、日々のケアの中で声掛け・見守りを密に行い、本人の不安の軽減に努めている。また、職員間の情報の共有をより密にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族からの相談や要望に耳を傾けるよう心掛け、入居時のケアプランを作成している。その際にも聴き出せるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居されてからは、常にご家族・ご本人の希望や要望をお聴きしスタッフ間で話し合い、期待に応じられるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の想いに早く気付き、楽しい生活ができるように配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族への連絡や報告は重要なことと考えている。面会時、メッセージカード、電話などを十分に活用し情報の提供を行っている。ご家族への連絡を密にして、ご本人さんの状態を把握して頂き、職員だけでなく、ご家族の協力を頂きながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人との馴染みの関係を大切に考えているが、ご家族によって状況が異なるため、ご家族の了解・確認を取りながらスタッフが介入・支援している。	
			(外部評価) 事業所の運営が長くなると利用者の馴染みの関係も一人ひとり異なってくる。まだ利用期間が短いとそれまで住んでいた居住地に馴染みはあるが、利用期間の長期化等により幼い頃の実家だったりもする。また、事業所の造りが3棟の家のようになっているので、「ここが生まれ育った風景」と感じている人もいるなど、事業所では、その人に合わせた関係継続の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の状態や関係を十分に把握し、トラブル時には早急な対応ができるよう心掛けている。入居者がそれぞれに和やかに過ごせるよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時には、次の受け入れ先に対して情報提供を行い、随時相談を受けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、一人一人の思いや意向の把握に努め、スタッフ間で情報を共有している。ケアプランの見直し時には、ご本人、ご家族の意向を確認している。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の状態が変われば思いや意向も変わる場合があるため、「ある程度の期間毎に利用者の思い等は確認しなくてはならない」と考えている。またスムーズな共同生活を維持するためには、利用者が他の利用者の意向を知っておく必要もある。職員は折りを見て本人の聞き取りをするだけでなく、利用者自身が全体を把握できるように、それぞれの思いを伝えることにも力を入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) なかなかご本人から情報が得られない。在宅時のケアマネから情報を得たり、ご家族からの情報を基に生活支援をしている。また、入居後の生活を共にする中で状況観察、状態把握をしながら支援の仕方を模索している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の申し送りの充実を図り、一人一人の状態把握に努めケア・支援の充実にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 各担当者によるモニタリングができています。本人よりニーズを聴き取ることは難しいことが多い。ケアプランの見直し時には、本人だけでなく、ご家族からもニーズを聴き取りプランに取り入れている。  (外部評価) 管理者は、各ユニットに配置の計画作成担当者が作成する介護計画の責任を担っている。計画案は利用者付の担当職員が立て、ケア会議で計画作成担当者が取りまとめており、管理者がシフトで介護業務に入っているため、職員の立場としての意見を出し合うことができています。介護計画の質を上げることは利用者の生活の質を上げることになるため、職員には介護支援専門員等の資格を取得するよう勧めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の生活の様子、会話の内容を個別記録や週間活動表に記入しスタッフ間で共有し、モニタリングやケアプランの作成に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の身体的、精神的状況をその都度報告している。また、話し合いを行うことで、ご本人・ご家族のニーズに柔軟に対応できるようサービスの提供・支援ができるよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れ、訪問歯科、訪問美容、介護相談員の受け入れ、住民運動会への参加、自治会の清掃活動、防火訓練の実施、保育園の園児との交流会など日々の生活の中で関わられるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 定期的にかかりつけ医の受診をしている。また、入居者個々 には、かかりつけ病院があり受診している。受診に際しては スタッフとご家族が協力して行っている。</p> <p>(外部評価) 多くの利用者は母体病院がかかりつけ医になっている。他の 専門医がかかりつけ医の利用者もいるが、定期的に往診を受 けているため、通常の健康管理は母体病院が行っている。管 理者が看護師で健康管理を一元的に行っているため、各病院 から信頼されており安心して話し合いができています。病院 受診が必要な場合は、できる限り家族等に付き添いを依頼し、 事業所と家族が連携して利用者を支えている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 事業所内の看護師に状況を報告・相談している。その時の指 示を仰ぎながら対応している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行って いる。	<p>(自己評価) ご本人の身体状況に応じ、ご家族、担当医と相談。入退院の 支援を行っている。病院関係者と継続的な関わりを持ち、情 報の共有を図っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時や状態の変化に応じ、ご本人・ご家族と話し合いを 行っている。ご本人・ご家族にとっては、今後への不安が強 いため、母体病院との連携を図ったり、介護保険施設への申 し込みをお願いしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念が「共同生活を支える」ことを重視しているた め、終末期ケアは行わないという方針で、利用者が口から栄 養が摂れ、医療的ケアを必要としないで生活できる範囲で支 援している。管理者は「家族に次の所を依頼するのは辛いで す」という思いではあるが、「でもここを利用する時の契約 ですから」と事業所の考えを通すところに、「共同生活を支 える」という信念でケアを行っている強さを感じられる。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 母体病院での研修会や避難訓練を定期的に行い、急変時や事故発生時の初期対応や心肺蘇生、AEDの使用についての研修を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災訓練、応急処置訓練を実施している。避難指定場所への避難訓練なども行っている。今後も自治会・地域住民との連携強化を図り、非常時の対応がスムーズにできるよう取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 災害訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれており、自治会からは身近な場所で色々な訓練が体験できると好評である。事業所が緊急連絡網により母体病院と繋がっていることに、地域住民は安心感を持っている。自然災害等の際は、近隣の方に事業所の集会場を避難場所として提供することを伝えており、過去の豪雨災害の際は事業所が地域で有効に活用されるなど、事業所は住民にとって貴重な存在である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ全員が、常に入居者様の人格を尊重しほこりや自尊心を傷つけない取り組み支援を行っている。個々のペースに合わせて、落ち着いて過ごして頂けるよう支援したいと思っている。	
			(外部評価) 昼食時にお喋りが好きな利用者が職員を相手に夢中に話す様子を見ていると、そのペースに他の利用者は付いて行けないように感じるほどであったが、職員は心得たもので上手に対処し視線を他者にも配り、さり気ない食事の介助や微笑みかけ、利用者一人ひとりを尊重しながら支援している。調査員との一緒にの食事は利用者も気を使い寡黙であるが、横顔からは充実している生活を送っている様子が窺え、事業所が個々人の誇りを大切にしていることが理解できる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活支援・日常会話の中で、ご本人の気持ちや思い・希望を聴き取ることができるよう心掛けている。また、自己決定できる場面作りを行っている。自己決定が難しい方も、できる限りご本人が意思決定できるよう、その思いを汲み取ることができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方、それぞれのペースを一番に考え、したい時にしたい事が出来るに支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご家族に、ご本人の好みをお聴きし、その方の状況に応じた身だしなみ、おしゃれができるようにしている。ご本人と一緒に買い物に行ったり理美容院へ外出を行ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご本人の負担にならないように、ご本人の様子を十分観察しながら手伝って頂いている。	
			(外部評価) 最近まで料理は各ユニットで作っていたが、重介護化が進むと職員が利用者とゆっくり話す時間が取れなくなり、現在は週に何回か宅配を利用している。職員が業者に献立や量などを細かくリクエストしており、宅配だとは分からない。また、ご飯は利用者一人ひとりに対応できるよう各ユニットで用意しているなど、事業所のこだわりが感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の食事・水分摂取量の把握に努めている。不足しがちな方に対しては、声掛けを密にしたり内容を工夫したりしている。担当医にも相談しアドバイスを頂き、十分な栄養と水分が摂れるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 訪問歯科を利用し、指導を受けながら口腔内の清潔を保てるよう支援している。訪問歯科の導入により入居者の負担の軽減が図れた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄能力・状況に合わせ、紙パンツ・パットを使用している。適時、トイレ誘導を行い可能な限りトイレで排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 職員は利用者が日中はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間は利用者により睡眠を優先するため紙おむつやパットも使用している。トイレは各居室にあたり、一箇所に集中して設置されていたりとユニット毎に違いがある。職員からは「それぞれ一長一短があります」と聞かすが、短所は職員全員の介護力で補っている。トイレが集中しているユニットでも、臭いが気にならないぐらい手入れが行き届くなど、利用者が気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排便リズムを把握し、自然排便を心掛けているが困難な方は緩下剤を服用し調整している。また、水分補給や牛乳、乳酸菌の入った飲み物を飲んで頂くなどの工夫を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴ができる状況にしている。ご本人の意向や心身の状態を考慮し入浴の支援をしている。入浴を嫌がる方に対しては声掛けの工夫をするなど個々に応じた対応を行っている。	
			(外部評価) 事業所は「共同生活」をイメージしているため、ゆったりとした気分仲間同士でも入浴できるよう浴室は広く、浴槽も3～4人用である。「皆で温泉気分」は過去のことで、現在は利用者職員により個浴として使われている。また、シャワーチェアやシャワーキャリーを準備するなど、危険のないよう努めている。管理者は、入浴介護の現場を見るたびに、当初実現していた「共同生活」を目指すか、重介護化に備えるかのはざ間で困惑しているのが現状である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者個々の状況に応じて声掛けを行い、休息を取って頂いている。夜間の睡眠状態については個々によって違い、覚醒時には、声掛けや見守りを行い、十分な睡眠が取れるよう、一人一人のペースに合わせた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用、用法や適量について、情報を共有している。服用時には必ず、スタッフ間で確認しながら支援を行っている。医療関係者とも連携を密に行い、情報を共有、状態の変化に対して対応できるように心掛けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ケアプランを基本として、本人のできることを見極め、場面に応じた支援を心掛けている。また、ご本人の負担にならないよう、他の入所者とトラブルにならないよう、常に配慮している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の状態や状況に応じて外出できるようにしている。地域の行事にも、ご本人の状況を見ながら負担にならないよう支援し参加している。  (外部評価) 母体法人の車両を使い、遠方への外出は年間行事として実施しているが、回数に限られているので、できる限り庭に出るなど外気浴を楽しんでいる。庭には軒が長い屋根があり、雨の日でも安心して戸外に出ることができるため、利用者は雨だれを見たりトタンの雨音などを聞くことに風情を感じている。管理者は、利用者が外出し外の空気に触れることは、身体機能の維持や向上、ストレス解消など相乗効果があるという信念で、家族の協力などを得ながら積極的に外出できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は、事務所で管理している。入居者の買い物については、ご本人・ご家族の了解を得て、事業所の立替えにて対応している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族の面会時や電話がかかってきた時に状況を報告している。毎月、メッセージカードを送り、スタッフからのコメントだけでなくご本人のコメントを書いて頂くようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節を感じることでできるよう花を活けたり、壁面に飾りつけを行ない、楽しんでもらっている。また、家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。  (外部評価) 民家を改修したユニットの味わいを引き継ぎ、どのユニットも自宅で寛ぐような気安さがある。事業所は住宅地にある平屋建てで、玄関からすぐにリビングに上られるユニットがあり、また各ユニットの中心の中庭から玄関に入るようになっているが、中庭が外部から事業所の生活を守っているため、プライバシーは確保されており安心である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのテーブルや座席の配置、方向を調整し、その人が自分のペースで生活できるよう工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる限り、それまでの使い慣れた家具などを持ち込んで頂き、心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。  (外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所というように居心地の良さが感じられる。法人所有のベッドを活用している利用者が多いほか、民家改修のユニットでは、広い縁側までのふすまを取り払った続き間をそのまま居室として利用しており、実家に帰ってきた雰囲気や気持ちが落ち着き、安らぎを感じることが出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ご本人の身体的・精神的状況に合わせて福祉用具を活用している。また、環境整備についても工夫しながら対応している。	